

喜多流 狩野了一 能の会

第七回 きこ乃舎 Ki no Kai



世の中を
厭ふまじき
難からの
飯の宿りを
悔しむ君かな

能江口

狩野了一

狂言 鬼瓦 山本東次郎

世を厭ふ
人とし聞けば
假の宿に
心留むなど
思ふばかりぞ

❖ 2026年6月27日(土)

13:30 開演 (12:30 開場)

❖ 喜多六平太記念能楽堂

東京都品川区上大崎4-6-9 Tel:03-3491-8813

13:30

おはなし 山中玲子

番組

14:00

狂言 鬼瓦

シテ(大名) 山本東次郎 アド(太郎冠者) 山本凜太郎

休憩 二十分

14:35

能 江口

シテツレ(遊女) 狩野 祐一
シテツレ(遊女) 谷 友矩
後シテ(江口君の靈) 狩野 了一
前シテ(里女)

ワキ(旅僧) 館田 善博
ワキツレ(旅僧) 大日方 寛
ワキツレ(旅僧) 梅村 昌功
アイ(江口の里人) 山本凜太郎

大鼓 亀井 広忠
小鼓 鶴澤 洋太郎
笛 松田 弘之

後見 塩津 哲生
中村 邦生

地謡 佐藤 寛泰 佐々木 多門
友枝 真也 金子 敬一郎
大島 輝久 長島 茂
塩津 圭介 内田 成信

終了予定 午後四時半頃

〈あらすじ〉

旅僧の一行は、西国行脚を思い立ち旅立ちます。淀川を下った一行は、江口の里の旧跡を訪れました。江口の里は、河港の宿場町として栄え、かつて多くの遊女たちがいました。江口の君(長)の旧跡を眺めつつ、西行が宿を断られたときに詠んだという「世の中を厭ふまでこそ難からめ宿りを惜しむ君かな」の歌を口ずさんでいると、里の女が現れ、江口の君の返歌を取り上げ、西行の頼みを断ったのではなく、遊女の宿であるゆえ出家の身を持って遠慮したのだと江口の君の心情を語ります。僧にも、出家の身なのだから俗世の話など気に留めないようにと言います。女は江口の君の幽霊だと言って消えてしまいました。僧が、里の男に江口の君のことを聞くと、男は、かつて性空上人が靈夢で江口の君が普賢菩薩の生まれ変わりだと知ったというエピソードなどを教え、申うよう勧めました。夜半、江口の君を弔っているところに、舟遊びをする遊女達が現れ、江口の君は、因果応報、諸行無常を説き、舞を舞います。やがて江口の君は執着を離れば悟りを得ると語って、普賢菩薩の姿になり、舟は白象となって、白雲とともに西の空へ飛び立っていきました。

入場料

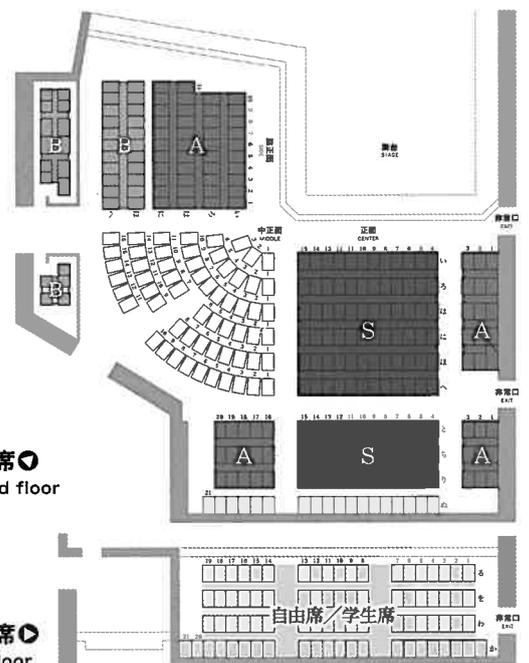
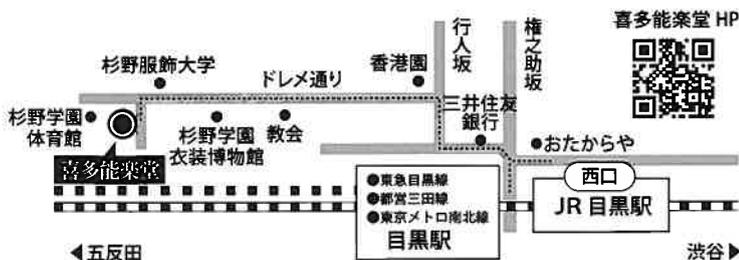
指定席 S席 10,000円 / A席 8,000円 / B席 7,000円
自由席(2階席) 5,000円 / 学生券(2階席のみ) 3,000円

チケット
お申込み
お問合せ

Tel:090-2312-9499(きの会事務局)
Fax:03-3301-9788(きの会事務局)
Mail:ryol_kano@mac.com
〈喜多能楽堂〉
HP <https://kita-noh.com/ticket>
Tel :03-3491-8813

チケット発売日 3月10日 午前10時より

十四世喜多六平太記念能楽堂 (喜多能楽堂)



主催 桐光会

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線・ともに目黒駅より徒歩7分。
目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。
※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。